

# Economic Indicators

発表日: 2019年11月1日(金)

## 景気動向指数(2019年9月)の予測

～駆け込み需要で高い伸びも、基調判断は「悪化」継続～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 新家 義貴 (TEL: 03-5221-4528)

### C I 一致指数は駆け込み需要で高い伸びに

内閣府から11月8日に公表される2019年9月の景気動向指数では、C I 一致指数を前月差+1.8ポイントと予想する。18年10月の+2.0ポイント以来の高い伸びになるだろう。内訳では、有効求人倍率などがマイナス寄与になった一方、小売業販売額や卸売業販売額、投資財出荷指数などが大きく押し上げたとみられる。9月に消費税率引き上げ前の駆け込み需要が集中したことがC Iの上振れに繋がった形である。

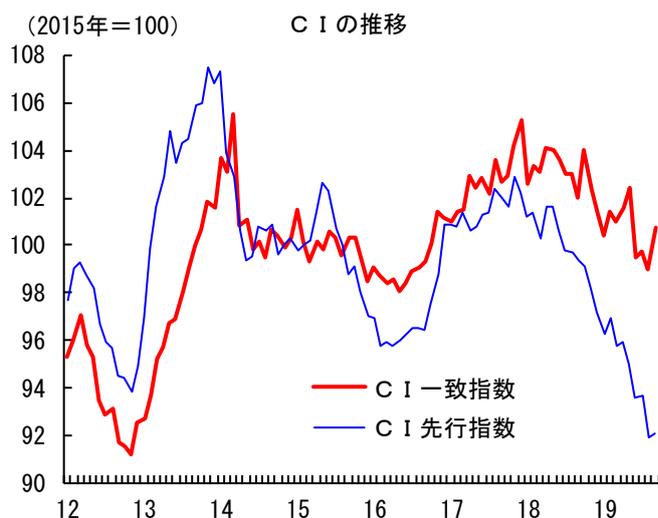
### 基調判断は「悪化」で据え置き

内閣府によるC I 一致指数の基調判断は「悪化」が予想される。8月分において、それまでの「下げ止まり」から「悪化」に下方修正されたが、9月もその判断が維持される見込みだ。基調判断が「下げ止まり」へ上方修正されるための条件は「3か月後方移動平均(前月差)の符号がプラスに変化し、プラス幅(1か月、2か月または3か月の累積)が1標準偏差分

(0.90)以上」かつ「当月の前月差の符号がプラス」である。9月に高い伸びとなることで、3ヶ月後方移動平均前月差の値は+0.43と4ヶ月ぶりにプラスに転じるとみられるが、上方修正の基準である0.90にはとどかない。

なお、仮に9月が筆者予想通りの場合、10月分が前月差+0.4ポイント以上であれば「下

げ止まり」への上方修正の基準を満たすが、これはさすがに困難だ。10月は駆け込み需要の反動が生じることから、今月大きな押し上げ要因になった小売業販売額や卸売業販売額は急低下が必至であり、C I 一致指数も大幅な低下になることが見込まれるためである。3ヶ月後方移動平均前月差の値は10月分で再びマイナスに転じるだろう。当面、基調判断は「悪化」が継続する可能性が高い。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2019年9月は第一生命経済研究所による予測値

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

